

とどめておきたい SGHC 日本橋本社ビルの建物コンセプト

2022年9月20日、SGHC 日本橋本社ビルの改装お披露目会が、松本会長、グループ各社代表取締役、松本滉太取締役並びに田村いづしやサクラ社長のご出席のもと開催されました。

この本社ビルは1983年に伊藤喜三郎建築研究所の設計により建築され、このたびも特別顧問の伊藤一章氏にアドバイザーをお願いしました。この日、お話頂いた本社ビルの建築コンセプトを記録しておいた方が良いという石塚社長のご提案により、伊藤氏にまとめて頂きました。ぜひご覧ください。

(SGHC)



改装お披露目会



コンセプトについて説明される伊藤氏

今回の改修について

街と調和し美しく明るいオフィスビル

伊藤喜三郎建築研究所 特別顧問 伊藤一章



50年近くにわたり、ご親交を頂いている松本会長から、昔(40年程前)伊藤さんに設計してもらった日本橋ビルの改修をしたいので見て欲しいとのお話を頂きました。

人との繋がり、歴史を大切にする松本会長とのお縁があったからこそ与えられた嬉しいお話でした。

画期的だったビルのスタイル

当時から、この敷地は日本橋の大通りに直角に交わっている旧日光街道に面する歴史的な中心地ただけに、周囲は製薬会社の本社等が林立する著名な場所でした。しかし人通りは朝、昼を除くと多くはなく、中心地にしては静かな所でした。

そこで1983年に本社ビルを建て直すにあたり周囲の街区に少しでも「賑わい」を与えられる様、建物入口を交差点に対し45度の角度を取り、更に2階迄の吹き抜けを取り2層分の高さで、ガラス面として、明るさと活気を与えようと考えました。当時としては画期的なスタイルのオフィスビルでした。

40年前の想いを今に活かして

今回の改修にあたり当初のコンセプトを改めて踏襲し、サクラビルがさらに街区と一緒に美しく明るいものにしようと考え、松本会長にもご了解頂きました。

この考え方に基づき、デザインの基本的なイメージを以下のようにしました。

1. 全体をスッキリ分り易く、明るい感じに仕上げる
2. サクラという会社のキャラクター、歴史を尊重する
3. 壁には木を多用し、基本的に「桜」或いはそれに準ずる木質系とする

4. 温かみのある素材を用いながらモダンな日本的雰囲気をつくる

【1階】

1. サクラという会社はどんな雰囲気の会社なのかを外の通りからも感じられる様にする
2. 複雑な印象だった導線をスッキリとさせ、玄関、待合の雰囲気を明るくする
3. 来客も社員も気持ちよく利用でき、更にサクラの歴史を識る場とする

【2階】

1. 2室あった会議室を1室にまとめ大きくし、TV会議、VIPの接客ができる質の高い会議室とする
2. 会議室、ロビー、外の景色を連続的な空間とし、広々とした快適な場をつくる
3. 限られた空間を最大限利用し、天井高、平面積をとる
結果として会議室からはロビーを通して緑の街路樹が(桜の季節はどんなに素晴らしいでしょう)、正に目の前に広がり大変気持ちの良い会議室ができました。

温かいご縁に感謝

この計画において、松本会長のご要望を具現化する為に清水建設の方々の上質な対応と技術の提供があった事が成功の鍵であったと嬉しく思っています。

当然ですがサクラ側からこの工事に関わった方々の熱心なご指導、協力に加え、ご自分達も積極的に作業に参加された事で、全ての作業が気持ちよく円滑に進みました。この計画に参加させて頂きました事は大変嬉しく、心からお礼を申し上げます。